

## 妙現寺の瓦版

佛立修学塾という教務さんの勉強会が9月18日から岡山の妙現寺で開催され、久しぶりにご参詣をさせていただいて、そこで凄<sup>すご</sup>いものを見ました。A4片面刷りの、「瓦版」と書かれたチラシです。

多くの寺院は所属信徒へのご奉公の周知を目的に、「松風寺月報」のような「寺報」を刊行しています。この瓦版も、内容は信行コラムとご信心の豆知識で、見た目は本格的な新聞でしたが、妙現寺の寺報とは別に、薫化会のお世話をされる岡田さんという男性のご信者が、若い世代のために個人で編集し、配布しているものだそうです。

最新号は「罪障」をテーマに、私の体験談が紹介されていました。「佛立新聞や宗門のホームページに掲載されたので、皆さんもご覧になったでしょう」と前置きし、まず体験談の概略が記されますが、松風寺では『びっくりす』に載せてもあまり話題にならなかったものですから、この入り方には体験談への関心の高さを感じました。

次いで体験談の最後に、私が「新たな功德行に挑戦するとき、身に潜<sup>ひそ</sup>む罪障が現れるのは常ですし、その消滅に努めて自身の果報を増すのがご信心の筋でもあります」と書いたことに言及し、本題に入ります。すなわち、「前からこれが疑問だった」「ご奉公して罪障が出るなら、最初からしない方が良いのではないか」等と、初心にありがちな疑問をあげて、こう思う人がほかにもあろうと御導師にお尋ねをされます。そして、誰もが本来持つ罪障が、ご奉公の功德で洗い流される意味だと教えられて「目から鱗<sup>うろこ</sup>」と喜ばれ、読者にもご奉公を勧められるのです。実際、ご奉公がなければ、いつまでも身に負う罪はそのままなので、これは大事な心得です。そこで「洗えば汚れは浮き出る」と譬えて学びますが、普段のご参詣がない人には説明不足だったかも知れないと考えさせられました。

しかし、佛立新聞の体験談を意識させ、自身も読み込んで身近な題材を探し、御導師のご指導をいただいた上で、若い人にも分かるよう解説するのですから手が込んでいます。「見事ですね。若い信徒の視点で教<sup>か</sup>えを噛<sup>くた</sup>み砕くようなことを、岡田さんは自分でされるのですか」と山内御導師にお訊<sup>たず</sup>ねすると、「そうや。ああゆうこと自分で考えてするんや。あんな子が教務さんになってくれるとええな」と仰せでした。一枚のチラシにあふれる、やる気と工夫に感服です。

岡田さんは、94歳で帰寂される日まで寝込まずご奉公された熱心な祖父の姿に随喜して、最近ご奉公されるようになったと聞きます。特に薫化会は、岡田さんが会長になってからご夫婦で懸命に取り組まれ、今では例月の御講も50名を超える参詣があるそうです。修学塾の授業風景も、岡田さんは写真に撮られていました。あとで「瓦版」に載るのかも知れませんが、平日の日中でしたから「岡田さんの仕事は？」と御導師にお聞きすると、「商売<sup>つか</sup>をしてるから、ご奉公をした方が仕事が旨く回ると掴んだようや」とのこと。

進んで工夫し、自発的にご信心に臨むので、仕事もご奉公も御利益でどんどん良くなる岡田さんの、お寺への愛を感じるご奉公です。

(「松風寺月報」令和元年10月号)